



新板
繪入

風流倭莊子
三之卷



遠 13
1710
3



13
1710
3

大和女子の目錄



△京師風俗の巻

帯小紋放り



○八景の中見立

三井のり破鏡并

出菜屋の体立

夫婦争ふを喰ひ

水くさむ酒

月本女子巻二三四

〇一

○後威乃宿云 終
附

阿孫河乃宿の元井
武士乃宿雲乃

目のぬまゝ入あり并

弓田也て

○徳納もの巻換 伊
附

晴宮乃入とる家井
人の接る二島松

川井乃松欵のり
お高あま目乃

風流大和けりし之

伊 出茶屋のせりぬ
甲打りれはす

又乃出茶屋乃御打りもくそよりくちもかまはるる花の

かきり細女屋お茶の花吉小乃とて女を茶まゆぬらく

かき入切り物せりぬ。御乃氷乃お持するもさるのよお

のけりまれといふてくと初登り身の上とまじりりらうり

もて世の初登り初登り初登り初登り初登り初登り初登り初登り

野を登り初登り初登り初登り初登り初登り初登り初登り

茶屋の初登り初登り初登り初登り初登り初登り初登り

さんゆあきくやるゆえの山とて。初登り初登り初登り初登り

よみてはひきまよくきつてのうひは
つらきほどしつとのおわあれ海乃水
のこがらうと新うら。
あまうり一あま八尾寺十津坂か
る人あまたて底くらまよ
るる海乃くもあんと民のそ
れさあらむきたひのみの
かほ
れ市乃ちけらとも。ひもぬ片
もみ見せめとく。雲尖おと
そらつと。わらつと春
高人のえひよわつたとて
あはまふ。あは津
の眼あきらむさうぞう。う
らうれをせよ。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あまか
ぎりう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あまか
ぎりう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あまか
ぎりう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎりう。

おかしな歌のうらな強よ
なげさうけと招自もあうで
あうこ
を。是つと海乃あふ
る。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。
あまかぎりう。あまかぎ
りう。あまかぎりう。あ
まかぎりう。あまかぎり
う。あまかぎりう。あま
かぎりう。あまかぎりう。

日本在子集の三
〇三

さぐくわ。我まよきしてぼつとがし。さあ甲斐りよこし
きつとあふんし。ことほけりて。せんあらあいにし。せいせ
は。さぶらふらふら。一止入る。し。さ。あ。ん。ん
な。を。さ。ら。う。ら。あ。ま。う。と。い。ぬ。あ。ま。の。み。の。り。相。さ。つ。
と。ら。う。さ。そ。く。ほ。ま。い。せ。川。水。か。ら。ま。の。天。酒。堂。じ。や。う。
の。の。ら。う。と。う。ま。さ。う。遊。行。は。ま。ま。と。信。石。通。り。あ。ま。よ。こ
そ。西。の。の。た。た。ら。ま。へ。へ。わ。せ。か。り。し。ま。せ。ほ。ま。や。が。せ
し。ら。う。一。是。儀。と。抑。ま。し。押。し。へ。ん
一。儀。儀。の。後。云。附。り。目。の。わ。ぬ。親。方。馬。田。の。を。り。
憂。の。さ。あ。ま。へ。い。い。と。梅。の。大。れ。は。や。う。ぬ。か。と。い。ひ。わ。ら。う。何。の

ひくひうは世の言。意善れらるよじそがたき。あひ切とを
ぬけたん。と一を古のり。あまも。あま。梨。田。に。伊。人。の。傳。り
と。松。坂。初。て。る。川。新。久。車。押。と。老。久。男。女。ま。後。都
都。袖。う。ろ。移。と。び。て。し。あ。ま。都。乃。名。よ。ま。ま。二。条
此。大。徳。寺。一。止。入。ら。し。ひ。も。さ。ら。ま。あ。と。あ。ま。ま。る。る。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
も。信。甲。又。知。人。ま。ま。ま。ま。信。甲。つ。ま。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
摩。の。づ。の。の。も。ま。
ん。み。お。ち。ま。
る。後。儀。の。お。取。廻。ら。ぬ。ま。
伊。神。直。れ。の。ゆ。う。と。い。ま。



うへまうて。刃の並玉を歎まし、よとらひ。石をく
 上り、男は、女は、四つとけり。宿ふふ作、堂より、あひあひ、南を大
 急放、北に、年、九、上、大、見、世、著、儀、罪、生、石、流、流、正、と、
 性、生、持、ふ、と、し、や、ね、も、運、持、よ、も、つ、ま、り、う、て、う、く、や、う、く
 石、能、ま、い、の、お、お、の、ま、り、持、ま、の、う、う、小、傍、よ、う、や、さ、り、声
 づ、や、あ、や、し、や、く、北、地、節、の、さ、り、う、ま、く、寂、ひ、の、れ、の、万、能、亭、乃
 休、通、全、う、の、お、れ、る、れ、の、果、う、と、さ、う、さ、の、繁、繁、一、人、又、救、氏
 州、兼、保、と、見、て、食、傷、よ、も、つ、と、ま、れ、鴻、乾、霍、礼、は、相、救、二、三
 粒、用、て、七、乃、見、ま、て、自、害、を、せ、ま、い、や、流、と、共、二、人、に、
 う、合、て、あ、あ、や、う、の、も、耳、と、そ、ま、ら、く、や、ま、い、の、つ、ま、り、

系、今、う、ま、て、石、の、き、く、が、カ、ム、と、と、懺、悔、ま、ら、く、が、カ、ム、。繁、繁、
 河、の、お、お、の、光、と、云、は、石、を、繁、繁、繁、中、と、い、る、ん、だ、え、は、い、し、く、
 六、が、さ、あ、ら、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 と、い、あ、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、
 一、人、あ、り、一、人、う、ま、く、ま、ら、う、あ、り、一、人、あ、り、一、人、あ、り、一、人、あ、り、
 の、と、く、け、ひ、一、ま、ま、り、お、れ、ん、た、と、名、と、付、名、及、防、ま、ら、う、
 母、ま、り、人、彼、よ、能、を、垂、て、我、方、を、繁、繁、人、や、ら、う、。い、う、う、う、う、あ、り、
 う、て、い、や、た、村、と、い、ま、庄、あ、り、い、や、二、及、ま、あ、り、て、作、任
 と、お、う、い、の、あ、り、ま、い、ひ、て、あ、り、

世の中をうと回へるよ味石もあつは油意流山よ小島主人

うきとまねたまへんといふはさういふに思ふにやういふとて
 又座敷の鞠うづらういふはさういふに思ふにやういふとて
 つる志とほ人よさう例わりや。被孔は後の事ありさういふ。片
 端志と用らまへん。鞠とひんがしはさういふに思ふにやういふとて
 活合はさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 んごうはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 うつふはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 昔の百所はさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 けいふはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 ぐ。あより井とあより流の百所はさういふに思ふにやういふに思ふにやういふと

りくまはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 井とさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 子遊まはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 かさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 てはさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 海とさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 ちさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 りさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 こさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと
 ぬさういふに思ふにやういふに思ふにやういふに思ふにやういふと

彦部乃云民の娘を依り強きて江戸に出す事小
 業と云ふいふ川とよの目くさきと云ふ。あまら入ふ
 よよ宮の史あり。あつきとあやう種をばせむし
 内徳を依り強き目と人合強きと別。さう
 三日月の事此定むと二十翌月といひあつて終て
 といふ事ぬ。あつてあつていふ事ぬ。肝とつ柳。時
 て文と柳。海をさるといふ事。若菜と音と飽音と
 年と飽のり。災発してと。田のわさどして根の女
 くお作らむとく。信人私欲と抱く。あつてくく。時
 考と考と。一船一夕乃あつて。下徳をばせむし。



淵富橋河招招母よむるを扱てせむる並べし若
 一りんとお出るふあつてきてあつてまじりて
 云付る命令あまむかあり。南蠻小社の法を
 目下は能く隠れしと世とのまじりたるを親と
 しまりゆめと云はさう例とさうだ。まの
 の長とゆめゆめと云はさう例とさうだ。まの
 根をさあつてあつて世に法とて生れと
 実言と云ふ。あつて教へる。有るは法と
 世せんといふ。あつて世とて云はさう例と
 子不程を流るる。あつて流るる。あつて流るる。

角もたあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 どもあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 愛りあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 世何と云ふ。下和が撲あつてあつてあつてあつて
 希あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 の利とゆめゆめと云はさう例とさうだ。まの
 系一と云ふ。あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 必くあつてあつてあつてあつてあつてあつて

秋ふ可思義乃以きんよ入。善為ののの徳徳切徳一之
いさる

百代

ち
梅
花
一
枝

